

專業養鶏場を訪ねて

北海道長沼町 前田養鶏園



札幌より南東に三〇き、空知の南端に長沼町がある、室蘭本線と千歳線の中間に位置している、鉄道の不便はあるが、札幌—長沼間の道路は完全補装され、比較的交通に便な所である。石狩平野の一端に入るこの長沼町はもともと水利、地理的条件から、

米穀生産地として発達した所であるが、札幌、苫小牧の大消費地に近隣している関係で、蔬菜園芸作物の大供給地として、最近めざましい発展を示している所でもある。この長沼町市街から、ほど近い小高い丘の上に、前田養鶏園がある。この養鶏園は昨年始めたばかりの新進養鶏園で、リーダー格の前田さんを始め、同志三名の力を合せて、新しい経営に基いて、着々と成果を収めている。育雛舎、中雛舎、大雛舎、成鶏舎、更に飼料倉庫、事務所と整然と立ち並ぶ中を見渡しながら、鶏舎の中に入ると、丁度前田さんは飼料の調合中であつたが、快く迎えてくれた。

養鶏をやってみよう

前田さんは、昨年一月まで、当地農業協同組合の土地改良課に勤務していた技師で、養鶏の経験はなく、全くの素人である。そのため、六、七年前から各地の養鶏場を



前田さんと奥さん

視察、また文献などをつぶさに調べ、養鶏経営としての基礎を身につけ、一昨年末に計画を樹て始めたそうす。

前田さんは一昨年のことを思い浮べながら「これで、どうやら養鶏を始めてから、一年経過したので、大体の目途はつきましたが、当時はいろいろと苦心しました。その時私と同じ農協職員の一人と有志二人で共同経営でやろうということになり、それぞれ自己資金五〇万円ずつ投資し、当地の農協にも資金の面で色々相談し、とにかく、当初六五〇万円の予算を組んで始めたわけですが、施設に予想外の出資があり、それで、施設にそつて白レグ雛を漸次導入したような次第です。」

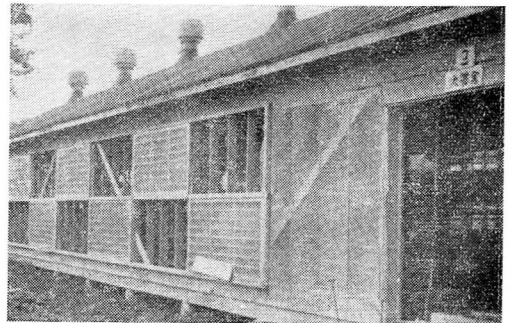
養鶏開始一年と聞いて、その充実さによく、新しい養鶏経営への意欲の現われであると痛感した。

ビニールを利用した鶏舎

現在、飼養総羽数は、七、〇〇〇羽で、その内訳は、白レグ成鶏一七八〇羽、委託鶏一、〇〇〇羽、試験鶏(各品種)一、〇〇〇羽を飼育している他はすべてロックホーンである。

白レグは冬期零下七度以下になると、産卵率が急に低下したので、耐寒性の重量鶏ロックホーンを重点におき、冬期間の産卵率の低下を防止している。

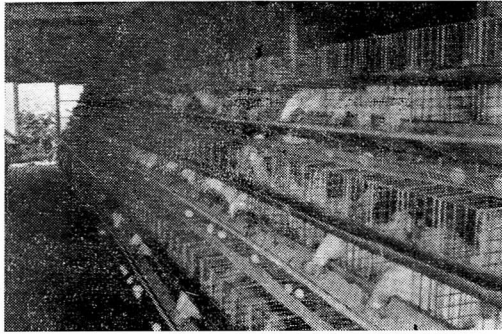
この鶏舎の特徴は、育雛舎、中雛舎を除いて、側面が殆どビニール張りとなつてゐることである。このビニール利用の鶏舎は、以前から検討していたことで、寒さの



大雛舎、成鶏舎はすべてビニール張りである

敵しい帯広、旭川のビニール鶏舎を見学、冬期零下三〇度C以下でも鶏舎内は零下七度Cを下廻らないこと、夏期暑熱時は簡単に開放できること、更に経費が安いと云うことで、ビニール鶏舎を採用している。昨冬の外気と舎内の気温の差を詳細に記録しているのを拝見したが、十一月二十五日、外気零下一四度Cの時、舎内は零下二度C、一月下旬、零下二〇度Cの時でさえ、零下五度Cを下らなかつたというから、かなり保温効果も高いものである。勿論、天井にはローフィングの保熱材料を用いたり、十一月に入つてからは、ビニールを二重にしたりして、保温に努めている。

坪当たりの飼養羽数、鶏糞の処理、管理の面で、産卵鶏はすべて、ミサイル型單羽ケージ三段を使用しているが、冬期上段と下段との温度の差が激しく、このため昨冬



産卵鶏にはミサイル型ケージ三段使用している
管理、収容力、鶏糞処理面で有利

下段の一部に羽換り、休産して、今年二月頃まで影響している。通路はコンクリートタタキのため、オガクズを敷いて温度の差を少なくはしたが、将来は産卵した鶏が特別な装置で別のケージに入るような群羽平飼ケージを使用したいと述べられていた。(これは、今試験段階で実用の可能性があるそうです。)

産卵鶏を常時四〇〇〇羽が目標

産卵鶏飼養羽数の計画は第一表の通りで、将来は常時四、〇〇〇羽、産卵率七〇%、一日一羽当り平均卵重四二gを目標に行っている。このため、淘汰は徹底的に行ない、一〇日間で四〇%以下の産卵成績のもの、連続休産三日あったものは、直ちに淘汰し、全体の成績をあげている。ロックホーンを

第1表 産卵鶏飼養羽数計画

年度	飼養羽数	年度	飼養羽数	摘	要
38.1	2,800	39.1	3,650	卵価が安い	クリスマス用として一部販売予定
2	2,700	2	3,400		
3	2,500	3	3,150		
4	2,400	4	3,650		
5	2,000	5	4,000		
6	1,800	6	3,700		
7	2,500	7	3,400		
8	2,350	8	3,900		
9	2,700	9	3,600		
10	2,500	10	3,800		
11	3,100	11	4,000		
12	3,000	12	3,700		

飼料の給与

導入したのも、冬期の産卵を上げるばかりでなく、卵が大きいこと(卵重大)と産卵とした場合、肉鶏としての価値の大きいことにもよるためである。

昨年十一月まで、一日一回の不断給餌をとってきたが、喰い残しやこぼしが多く、現在、朝(七〜八時)と昼(一一〜二時)の二回給餌である。微量成分にも細心の注意を払い、配合飼料の他に添加物として、ビタミンD₃剤(健康維持、食欲増進、卵重増加)、ハイフラン(成長促進、軟便防止、原虫性疾患の抑制)、貝殻、肝油、フィッシュソリニブル(換羽期用)を使用している。その他、緑餌として、キャベツの下葉を給与量の七%、ラデノクロローを一〇%与えている。現在、亜麻と混播でラデノクロロー一五〇羽作付しているが、まだまだ不足するので、更に一〇〇羽委託作付をしてい

第2表 飼料を中心とした採卵経営比較
(1羽1年)

	自給率 50%	自給率 33%	自家配合	市販飼料
	(1日 127g)円	(1日 122g)円	(1日 115g)円	(1日 110g)円
成鶏飼料費	796.00	974.00	1,300.00	1,415.00
更新鶏育成費 (180日分)	449.00	487.00	596.00	648.00
成鶏設備償却費	86.00	83.00	71.00	68.00
消耗品費	136.00	136.00	136.00	136.00
投資金	57.00	54.00	45.00	43.00
賦課税	13.00	13.00	13.00	13.00
自給飼料生産費	167.00	107.00	—	—
支出計	1,704.00	1,854.00	2,161.00	2,321.00
収入(*)	3,000.00	3,000.00	3,000.00	3,000.00
差引	1,296.00	1,146.00	839.00	679.00
人件費	812.41	711.43	502.39	473.14
差引	484.59	434.57	336.61	205.86

*収入内訳

1年1羽当り産卵量

$$42 \text{ 隻} \times 365 \text{ 日} = 15.33 \text{ 羽}$$

37年度平均卵価……キロ当り 178円

$$178 \times 15.33 = 2,720.00$$

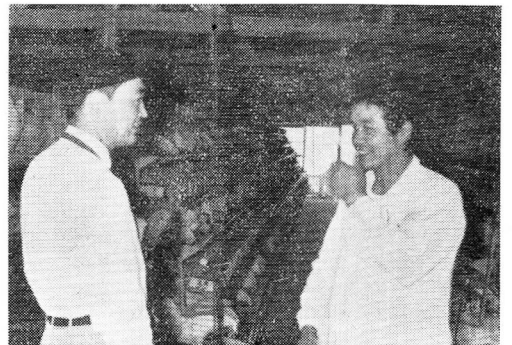
産卵キロ当り 150円 (生体)

$$\text{ロックホーン体重平均} 2.3 \text{ キロ} \dots$$

廃棄部分 20%と見て

$$150 \times 2.3 \times 0.8 = 280.00$$

「始めてから、未だ日が浅く、主に色々記録をとり、有利な経営にもって行くよう検討中です。収支については、今ここで、お



常時産卵鶏 4,000羽が目標ですと語る前田さん(右)

るなど、鶏に必要な緑餌の確保に万全を期している。
「始めてから、未だ日が浅く、主に色々記録をとり、有利な経営にもって行くよう検討中です。収支については、今ここで、お知らせする段階に至っておりませんが、第二表の通り、飼料別に比較した収支予算を樹てて見ました。これによれば、たしかに自給率を高くすれば有利なことは、一応計算上ははっきりしていますが、配合の仕方、調査、労力、更に土地の問題もあり、実際には、市販の配合飼料を主体として使うのが、最も堅実な方法だと思えます。
それでも、一年一羽当り、二〇〇円以上の収入があるわけで、一、〇〇〇羽飼養で二〇万円の収入が得られるわけです。ここまでもって行くには、先にも申しましたように、産卵率を七〇%以上、一日卵重一羽当たり、四二g以上にもって行かなければならず、能力の悪い鶏は、どしどし淘汰する必要がありますかと思うのです。」
前田さんは詳細な資料を片手に、更に一歩一歩前進しようとする意欲に燃えながら、こう話された。(近藤記)